

南 国 報

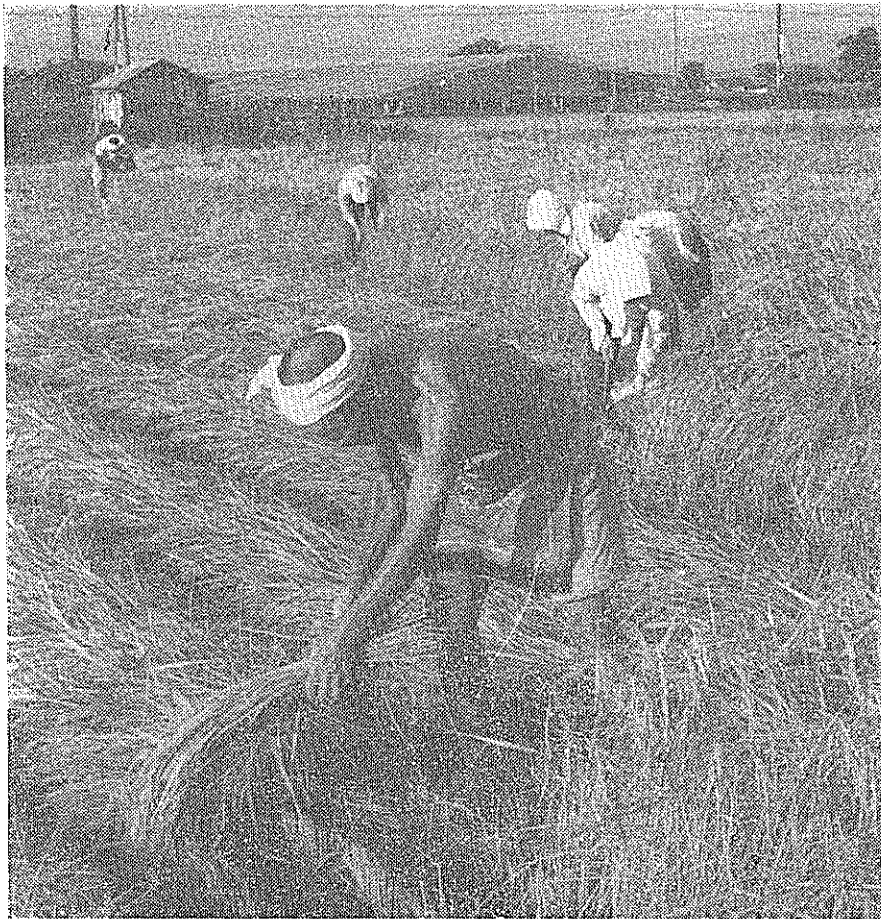
第 58 号

昭和19年8月20日

編集発行
南 国 市 広 報 委 員 会

事 務 所
高 知 県 南 国 市 役 所 内
(電 2111)

印 刷 川 北 印 刷 株 式 会 社
(電 3151)



真夏の うた

鉄を焼く太陽、むせ返す地熱。人心がついて
以来の豊作といわれる早稲秋に、かり出された
おとしよりも、第一線で黙々と働く、さしづめ
八俵は固いといわれ、ホット気を安める農民た
ちへ米価は上った。

8月の人口

=7月末の人口=			
出生	33	死亡	32
転入	152	転出	141
7月末の人口	42,759	数	
6月末の人口	42,744		
世帯			
7月		末	11,217
6月		末	11,249

早稲秋は終わった。短かかったこの期間がたまた長かったように感じる。一日一五、六時間の労働とあっては農民の体力にも相当ひびがはいつていることだろう。農繁期の共同炊事もそのひずみをすこしでも少なくしようとするものであり、また農民の食生活の改善にも役立っている、食生活の改善は進められても、精神的、肉体的な改善はまだまだの面がある。▼体を善使した早稲秋のつかれをとりもどすためも、農民レジャーの日を設けてはどうだろう。市全体でできなければ、部落全体でそれも駄目なら気の合ったもの同志、それとも一家ばかりでもよいせめて月一回の農休日設け、一家団楽の生活をたのしむことも大切ではなからうか、四十八時間の労働時間でさえ短縮されようとしているときに、……

